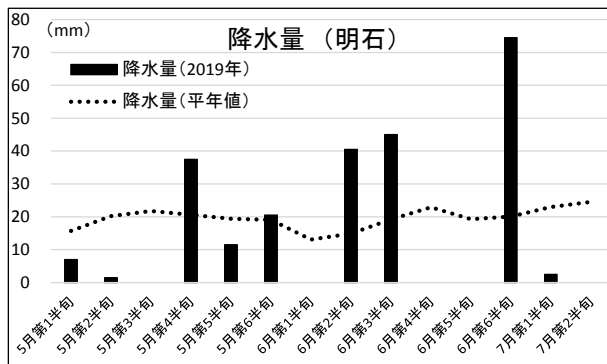
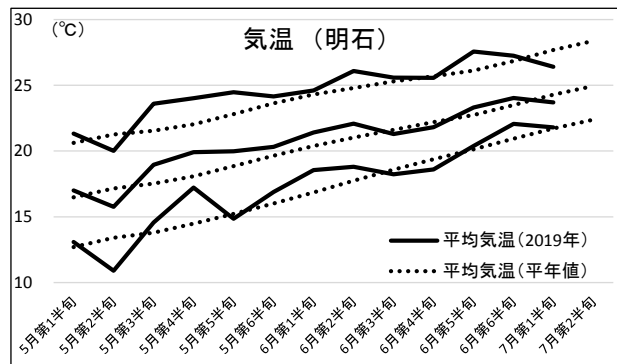


令和元年度 東播磨地域稲作気象台情報 第1号

発行：令和元年7月9日
東播磨農業改良普及事業協議会

1. 気象状況 (気象庁データ [明石]：5月～7/5)

気温はやや高めに経過し、また周期的な降雨がありました。今年の梅雨入りは平年より19日遅く、6月26日頃とみられます。



2. 生育状況 (県立農林水産技術総合センター [加西] の気象感応調査結果：6月25日現在)

品種	草丈	茎数	葉数
キヌヒカリ	30cm (平年比94)	378本/m ² (平年比170)	7.4枚 (平年差-0.2)
ヒノヒカリ	17cm (平年比81)	103本/m ² (平年比136)	5.0枚 (平年差+0.2)

3. 病害虫発生程度 (東播磨管内19定点ほ場での予察調査結果：7月8日実施)

	本田払い落とし					本田すくい取り				
	ヒメトビウンカ	セジロウンカ	トビイロウンカ	ツマグロヨコバイ	フタオビコヤガ	ヒメトビウンカ	セジロウンカ	トビイロウンカ	ツマグロヨコバイ	カメムシ類
明石 播磨	無	無	無	無	無	少	無	無	無	
稲美	少	少	無	無	無	無	少	無	無	
加古川北部	少	少	無	無	無	少	少	無	少	
高砂 加古川南部	少	少	無	無	無	無	少	無	無	

	病害調査							虫害調査 (見取り)			
	葉いもち病	穂いもち病	紋枯病	縞葉枯病	ばか苗病	もみ枯細菌病	稲こうじ病	ニカメイガ	イネミズゾウムシ	イネツトムシ	コブノメイガ
明石 播磨	無		無	無	無			無	無		
稲美	無		無	無	無			無	無		
加古川北部	無		無	無	無			無	無		
高砂 加古川南部	無		無	無	無			無	無		

※発生・発病程度が「甚」でも時期によっては生育に支障ありません。要防除密度となっている場合は赤太文字にしています。(例：甚)

ヒメトビウンカ、セジロウンカ及びツマグロヨコバイは、各地域で発生が確認されましたが、密度は非常に低い状況です。
トビイロウンカ、フタオビコヤガ、ニカメイガ、イネミズゾウムシの発生は確認されませんでした。
いもち病、紋枯病、縞葉枯病及びばか苗病も同様に、発生が確認されませんでした。
明石、加古川、高砂地域では、スクミリングガイやイナゴによる食害が見られました。
また、加古川市北部では、すでにカメムシの発生が見られています。

4. 今後の栽培管理について

(1) 病害虫防除

今回の調査では葉いもちの発生は見られませんでした。気象条件や生育状況によっては、今後も発生する可能性があります。ほ場の葉色の濃い箇所や日当りの悪い箇所などは定期的な観察を継続し、葉いもち病が発生していないか注意しましょう。

いもち病が多発している場合は、栽培こよみ等を参考に治療効果の高い薬剤で防除を実施しましょう。なお、薬剤は使用時期（収穫前日数）や使用回数等の使用基準を確認、遵守の上、散布して下さい。

＊いもち病の発生予測にBLASTAM（ブラスタム）情報を活用しましょう

BLASTAM（ブラスタム）とは、アメダスデータをもとに「いもち病」の感染に好適な条件であったかどうかを推定するシステムです。感染好適条件が連続して広域で出現した場合、7～10日後に広域的に葉いもちの病斑が確認され始め、さらに7～10日後には発病の増加が始まると推定されますので、ほ場を見回り葉いもちの発生に注意してください。

URLアドレス：<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/blastam2019.htm>（兵庫県病害虫防除所）

＊ヒメトビウンカと縞葉枯病

平成21年以降、イネ縞葉枯病を媒介するヒメトビウンカ（第1世代虫）のウイルス保毒虫率が高まっています。平成30年度、加古川市志方町の小麦ほ場で採取されたヒメトビウンカの保毒虫率は2.1%でした。水稻生育初期の発病株はその後の感染源となり、出穂期の発病を助長させるため、発病株をできる限り早く抜き取り、感染拡大を防止しましょう。



イネ縞葉枯病

＊斑点米（カメムシ類）対策の徹底を

斑点米の原因となるカメムシ類は、雑草が繁茂しているところに集まり繁殖します。水田周辺の畦畔等の草刈りは、出穂の2週間前までに終わることが重要です。合わせて、カメムシ類の居場所をなくすため、周辺の休耕田、池の堤や法面等の草刈りをしましょう。なお、出穂期の草刈りは、カメムシ類を水田に追い込み、逆効果となる場合があるので注意が必要です。

(2) 水管理

<キヌヒカリ・コシヒカリ・あきたこまち>

中干しが終わり、入水時期となります。中干し期に出た新しい根を湛水状態に馴らすため、間断灌水（田面に水がなくなれば入れる）を実施し、丈夫で活力のある根を維持しましょう。

<ヒノヒカリ>

有効茎数の8割（株当たり18～20本）が確保できたら、幼穂形成期までの間に1週間程度中干しを行いましょう。排水不良田での中干しは、早めに始め、強めに行いましょう。中干し終了後は、間断灌水に切り替えましょう。

(3) 施肥管理

穂肥は中干しの終了後、減水が落ち着いてから、適期に実施しましょう。穂肥の時期や量は、稈長や一穂粒数への影響が大きいため、出穂期予測及び葉色・葉鞘のヨード反応などの生育診断に基づき決定しましょう。

基肥に緩効性肥料を入れる一発施肥の省力体系でも、高温が続く場合は肥切れを起こすことがあるので、よく観察しましょう。なお、葉いもちの発生ほ場では、いもち病の発生状況によって、穂肥を調節（発生していれば控えめに）しましょう。

※兵庫県農業気象技術情報サイトへのアクセス方法

兵庫県ホームページトップ画面より、「食・農林水産」⇒「農業」⇒「農産物」⇒「農業気象技術情報」と進んでくだ
もしくは、「農業気象技術情報」で検索して下さい。

URLアドレス：http://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11_000000097.html

発行：東播磨農業改良普及事業協議会

（構成員：明石市、加古川市、高砂市、稲美町、播磨町

JAあかし、JA兵庫南、JA加古川南 加古川農業改良普及センター）

調査協力：NOSAI東播磨、NOSAI兵庫、JA全農兵庫

お問合せ先 加古川農業改良普及センター 地域課

(079) 421-9354

JAあかし 本店 経済課

(078) 934-5800